

- 日 時 令和4年8月24日（水）19:00～20:30
- 場 所 東兎公民館
- 出席者 妹尾教育長、小崎次長、的場学校教育課長
- 参加者 37名（地域23 保護者14）

- 1 開会
教育長あいさつ
- 2 説明
教育次長説明

3 意見交換

参加者1：孫が鉾立小学校に通っている。この間まで鉾立小学校の耐震化について話をしていたのに、いつの間にこうなったのかと不思議に思って参加した。先日の山陽新聞で、岡山県内の公立小中学校の耐震化率が99.9%というのを見て、残りの0.1%は鉾立小学校なのかと悲しくなった。

今日の資料に「市立学校の適正規模化は児童生徒の学習環境の維持向上のため」とあるが、今現在、鉾立小学校は耐震化されていないし、そこで勉強している子どもたちのことはどうなっているのか不思議だ。

適正規模化は、ゆくゆくは必要だとは思っている。実際に子どもが減っているし、このままでは小学校として規模が成り立たないのではと思うが、その前に耐震化がどうなってしまったのかというのが正直なところだ。孫たちのことを思えば、今すぐにでも耐震化してほしいし、これからの子どもたちのためにも、まず耐震化をして、それから適正規模化を考えてほしいと思う。

限られた予算の中でとても難しいということはよく分かっている。必要な経費を必要なところに投じるために適正規模化するというのも分かっているが、それだと鉾立小学校が切り捨てられたような気がして、ちょっと悲しくなる。よろしく願います。

教育次長：鉾立小学校の耐震化については、（議会の否決を受けて）引き続きどう対応すべきかを、教育委員会の中でも議論を進めているところだ。

適正規模化については、元々の計画の流れの中で説明会をしている。適正規模化とは別に、耐震化も引き続き検討するので、確定次第またお知らせしたいと思う。

参加者2：私も同じ意見で、ずっと耐震化ということで何年か会合を重ねてきて、それが突然白紙になって、適正規模化の案が突然出てきて、以前の話はもうなくなりました。今後は鉾立小学校がなくなる方向で話を進めていきたいと思いますというふうに解釈している。

小規模校のメリットデメリットに関しても、子どもたちを見る限りでは、十分今の教育で満足できるものではないかと思う。だから、ここに関して教育委員会で、

どこが良いとか悪いとか言うのは違うと思う。敢えて無理やり今の環境を崩すことの方がダメなのではないかと思う。

今後、急に話を変えるのではなくて、きちんと順序立てて話をしていないとダメだと思う。全然脈絡のないところから突然新しい話が出てくるのはちょっとおかしいと思う。新聞を見て驚いて、鉾立小学校がなくなる、これは何とかしないと、ここに座っている。一方的に話を進めるのではなくて、きちんと順序立てて話をしてほしい。

教育次長：鉾立小学校の耐震化については、みなさんいろいろご心配いただいている。この適正規模化計画は玉野市全体を計画として考えているので、鉾立小学校だけというわけではない。繰り返しになるが、鉾立小学校の対応は別に考えているので、進展があったらお知らせしたい。

参加者3：検討委員会にコミュニティ代表は1人となっている。学校は地域にとって大切なものだし、コミュニティの中心としての役割も果たしているのに、この検討委員会の人数配分はちょっとアンバランスではないかなと思う。なぜこういう配分になったか。

それから、(地域説明会について)私も新聞で知って、周囲に声をかけてみたが、一人として知らなかった。今後の流れについての説明もあったが、この地域説明会とアンケートだけで市民に周知できるのかということと、アンケートが本当に市民の声を拾うことになるのかということだ。統廃合は市にとって大きな出来事なので、できるだけ市民の声を聞いてゆっくりと進めてほしい。

2つ目の質問としては、市民にこのことを広く知らせて、声をしっかり聞いていく方法は他に考えているかということだ。

教育次長：検討委員会の委員は、最初に学識経験者を決めて、あとは実際に子を持つ方を中心にPTAの関係の方々を数多く入れている。コミュニティの関係も必要と思い、公募委員やコミュニティ協議会の委員を入れている。

次に周知については、広報紙やホームページ、アンケート、アンケートにもQRコードを付けるなど、市としてできる周知をしているところだ。市民の声は可能な限り聞きたいが、限界はあると思っており、アンケートという手法を取った。アンケートは8千通は対象として配っている。そういったところから市民の声を拾い上げていくことができるものと考えている。

参加者4：まず、統廃合は積極的に進めるべきものなのか、それとも仕方なくするのか、どちらなのかを知りたい。

2つめ、アンケートがこの前より1枚増えているが、これはどういう意味か。

3つめ、玉野市教育委員会は「地域とともにある学校」を一番大きな看板に掲げていると思う。学校づくりと地域づくりは表裏一体であるということは何度も聞いているし、検討委員会の中でも金川座長が言っていた。だから私も検討委員の構成メンバーのバランスが、地域が少ないのではないかと思う。アンケートも8千と言ったが、その中で地域が答えるべきアンケートが千くらいだったか、8千の中で少なくないか。地域の者の声がどうすれば教育委員会や検討委員会に届くのかと、すごく不安に思っている。

教育次長：統廃合については、今回は子どもたちの環境を維持していくことと、複式学級を

解消したいのが一つの目的だ。地域の意見を聞きながら、どういう形にしていくかというのを決めていく、そういったところが今回の検討委員会の目的だ。

参加者4：今の答えは、統廃合は仕方なくすると思ってよいか。違うか。

教育次長：仕方なくということではなくて、適正規模は何なのかといったところで、結果的に統廃合につながるかもしれないといったことかと思う。

参加者4：結果的に統廃合ですね？

教育次長：そうだ。

参加者4：分かった。

教育次長：アンケートは追加をしたということだ。これは検討委員会の委員長のアドバイスをを受けて今回追加した。

学教課長：教育委員会で教育を進めるうえで、学校と地域が連携して、開かれた学校、地域とともにある学校に取り組んでいる。学校づくりにあたっては当然地域づくりも重要で、適正規模化を今後どう進めていくかを考えるうえで、地域づくりも合わせて考えていく必要はあると思う。

ただ説明したように、学校のあり方として、子どもたちの学びの環境を整えることを考えたときにどうすべきかを、まずは考えていきながら、合わせて地域づくりの面も検討ということになると思う。

参加者4：全国の例を見ると、100%とは言わないが、学校がなくなると地域は廃れてしまうように聞いている。だから、地域を大事にするということは学校を大事にするということであるし、その逆もしかりで、今ある学校をなくすということは、その地域をなくしてしまうことと思う。

今の学校をなくさないでほしいというのが私の願いで、20年後30年後を見据えているはずのこの統廃合計画が、もしかすると2年後3年後に鉾立小がなくなるかもしれないということに驚いている。

教育次長：非常に難しい問題と思っているし、検討委員会にもしっかり伝えながら計画を立てたいと考えている。

参加者4：アンケートが1枚追加された。私は山田地区にも参加したが、その時はA3の紙しかもらっていない。山田や日比の方にもA4の紙を配るか。学校の先生はアンケートが済んだように聞いている。もう一回配るのか。

教育次長：途中からアンケートが増えて申し訳ない。教職員、保護者には追加分を改めて配る。地域については検討中だ。

参加者5：小規模校におけるメリットデメリットを聞くと、やはり適正な規模でないと、子供たちの健全な育成は難しいと思う。そういう意味でぜひ適正規模化してもらって、将来の子どもたちが玉野市を支えるという視点を基準に、積極的に進めてほしい。

もう一点は、玉野市の財政は非常に厳しいという中で、そういった適正規模化が進むことによって、教育費の削減ができればと思える。

それから資料の通学距離の見方がよくわからなかったのだが、この4km以上、後閑バス停以西が90%、番田バス停以北が30%、これはどういう意味か。4km以内は歩いて通学できるという意味か。この黒い部分は4km以上あるからスクールバスという意味か。

教育次長：(国の)通学の補助の基準が4kmとなっていて、この黒い部分は(道のりで)4km

以上、色の部分は4km以内になっていて、4km以内は徒歩通学、それ以外はスクールバスでの対応が可能というものだ。この4kmというのは、一応の基準を示したもので、今後検討委員会の中で、これが4kmになるのか、3kmになるのか、変わる可能性はある。

参加者6：この資料にある鉾立小学校の人数（将来推計）を、どういうふうに決めたのかと思う。鉾立小学校は平成10年くらいから全校80人くらいの少ない学校で、ずっと20年以上、学校なくなるかな、まだ子どもいっぱいいるな、どこから増えるのかなと、そうしてずっと維持してきた。というのも、この鉾立地区が、環境的に子どもを育てるのにすごく適した場所だと思うから帰ってきてくれるのだと思う。

そうした矢先、いつの間にか鉾立保育園がなくなった。私はこれからも子どもにこの鉾立地区にいてほしいと思っていて、やはり学べる環境が一番いいと思うのだが、それをだんだん市の政策で削ぎ落されているように思う。ここいいからみんな来てと、来てもらえる環境が、すごく寂しい感じだ。

この表を作った人には愛情が足りないのではないかと思う。先ほども距離が4kmと言っていたが、小学校1年生の子が4kmを歩いていくという、私にはとてもではないが考えられないのに、それを普通に書いている、これは子育て経験のある人が作ったのか、数字だけで人を見ているのではと思ったが、どうか。この2点、どのようにこの数字を出したか教えてほしい。

教育次長：表の人数は、今現在いる人が転出も転入もしないという条件で試算をすると、こういうシミュレーションができる。我々も子育てをしてきているが、こういう形で推計できるということを示している。4kmの道のりを小学生が歩くというのはどうかという話もあったが、そういった点もどう決めていくかが今後の課題と思う。

参加者6：それを書いているという姿勢だ。

教育次長：基準として書いている。

参加者6：愛情がなく感じた。

教育次長：文科省等々が示している内容なのでご理解いただきたい。

参加者7：ネットで調べると、鉾立小の児童数は平成21年から令和3年まで横ばいだ。玉野市の他の小学校はだいたい右肩下がりだが、鉾立小学校だけをいえば、10年以上前から70人から80人くらいの間を推移している。令和3年から令和5年までの3年間は確かにちょっと下がってる年代だ。中には1クラスが一桁だとか、少ないクラスもあって一時落ち込むことはあるが、上がって下がってで、だいたい70人から80人くらいの間で推移してきている。それをこの3年間の下がっているところだけを例にとりて、どんどん右肩下がりに人数を減らしていくのは、ちょっと乱暴な計算の仕方ではないかと思う。

教育次長：令和3年、4年は今の数を入れている。シミュレーションの式があって、現在の出生率などから数値が出ている。いたずらに下げているわけではない。

参加者7：でもこの数字をもとに表を作っている。だったらちゃんとした数字を出さないと、右肩下がりに下がるという数字を出しておいて、それで統廃合しなきゃいけないですよという流れはちょっとおかしいと思う。

教育次長：しっかり確認しながら進めていきたい。

参加者8：若い人がいったん出ても、また帰ってきて家を建てる人が多い地区なので、先ほど言われたように減っても増えてということが起きる可能性が高い。この計画の一番の根拠がこの表、子どもが減っていくことにあると思うが、この表を計画の裏付けというか、元にされると、あまりにもむごいのではないかと思う。もう少し地区の様子をよく考えて出してもらいたい。

教育次長：そういったご意見もしっかり伝えたいと思う。

参加者9：鉾立小児童の保護者だ。現在の小規模な学習環境は子どもにとって良いと思うので、親としては維持してほしいと凄く思うが、小学校として利用するためにお金をかけるのか、地域の場合としてお金をかけるのかというところで凄く話が長引いているように思う。そのうちにうちの子も卒業してしまうのではないかと考えている。耐震の面などで難しいかもしれないが、小学校をなくすとしても例えば地域の人が管理できるようにするとか、もう少し他の案が出て、玉野市にとってお金がかからない方法で小学校を残せるような道があるのであれば、そういう意見も出た方がいいと思う。

個人的には急激に子どもの数が増えるとは正直思っていない。どうせ統合するならと言うと乱暴だが、それであれば、また耐震も含めてしっかりお金をかけて直すよりは、統合する先の学校の方にお金をかけてもらって、またそっちで、児童が増えたとしても対応できるようにしてもらった方が、将来のためにはいいと思う。

あと、今日も何件か意見が出ていたが、タイミング的に耐震化と統合の話が一緒になってしまって、誤解されやすいというか、誤解されているのではないかと非常に思う。集まりを開いてくれるのは話を聞くのに非常に助かるが、そこら辺をもっとわかりやすくした方が良く思う。

教育次長：予算をかけない提案とか、学校として利用するのか地域の拠点として利用するのか、どちらなのかという考えなど、ここで答えることは難しいが、ご意見はしっかり伝える。

確かに耐震化と適正規模化が同じ時期になってしまい、もしかすると勘違いされている方がいるかもしれない。耐震化は耐震化、適正規模化は適正規模化として、玉野市全体で考えていきたい。

参加者3：先ほど地域の人たちが（適正規模化について）知らないという話をしたが、例えば今日どんな意見や質問が出たのかとか、他の地域ではどんな質問が出たのかなどを、市民のみなさんと共有した方が良く思うので、質問をまとめてホームページに上げたり、全部は無理と思うが、検討委員会の議事録を市民の目に触れるようにしたりして欲しくないかというのが要望だ。

それから、複式の解消が目的と先ほど言われたが、小規模や複式には、とても高い教育効果を挙げている例が全国にたくさんあると思う。なぜ複式を解消しないといけないのかと思うので、これも検討委員会で話し合ってもらいたい。小規模校のメリットデメリットとあったが、デメリットはほぼ学校教育の中で解消できる、規模に関係ないと私は思った。例えば4番（教員それぞれの専門性を生かした教育を受けられない可能性がある）、中学校だと難しくなってくるかと思うが、例えば非常勤の先生を市で雇って解消するなど、いろいろ工夫ができると思う。それから7番（進学等の際に大きな集団への適応に困難を来す可能性がある）とかも、確かに考えら

れることだと思うが、これも教育次第と思う。残りはすべて学校教育で何とか解消できるデメリットで、だから規模には関係ないと思った。

学校の先生と子どもだけで小規模でやっていたら、こういうデメリットも起きるかもしれないが、玉野市は地域の協力がとてもあると思う。そうすると協働的な学びも、集団の中で自己主張も、地域の人を力を借りればいくらでもできると思う。

それから、小規模校だけでなく統廃合のメリットデメリットも挙げてもらわないと、保護者は想像が付きにくいと思う。例えば、山を越えて通学する問題や学童保育はどうするかなど、いろいろ数だけで言われたのではピンと来ないところが保護者にはあると思う。

参加者 10：長男が鉾立小、東兎中学校の卒業生で、現在次男が東兎中学校に通っている。個人的な意見だが、子どもたちのことを考えるのであれば、やはり人数が多いところがいいと思う。

長男のときはクラスが一桁台で、コミュニケーションや、人間関係のようなものの選択肢がすごく狭まっていると思った。中学校もだが、1クラスなのでずっと同じメンバーで、人間なのでぶつかったり、意見が違ったりということはあるので、それは仕方がないと思うが、やはりクラス替えがあればと思うし、自分の趣味とかも、合うなという人の選択肢が凄く狭まったなというのは、子どもたち本人からも話を聞いていて、実際に思っている。

社会に出れば大人数の中で生きていくので、子どもたちのためを考えるのであれば、多い人数の中で選択肢を増やしてあげることが将来につながると思う。

学校を残すという面に関しては、木造校舎は自分も通ったし、素敵な建物だし、いいなと思うが、それを税金で残していくと考えたときに、何年後かに自分の子どもが成人して玉野市に住むとなったとき負担を強いられるのは子どもなので、そういうのを考えるのであれば、例えばクラウドファンディングとか、そういう方法を他に考えて、生かせるのであればそちらの方が良いと思う。

参加者 11：山田の説明会にも参加したが、草案の資料も見たが、それに比べて資料がちょっと少ないと思う。というのが、東兎地区とか地区地区のものはあるが、全体的にAプラン、Bプランとかあったと思う。そんなのも載せてもらえたら、参加者も全体がよくわかると思う。

それと検討委員会の委員15名となっているが、人数的に少ないと思うし、アンケートの追加ができるなら、メンバーの追加もぜひしてほしい。

それと委員の任期は令和6年3月とあるが、それ以降の続きはないのか。というのが、鉾立小学校と後閑小学校が吸収されることになるようだが、鉾立地区から見れば、2年前の義務教育学校から始まって、小中一貫校、それから未来の学校、いま適正化ということで、いろいろな言葉替えでこのようになったと私は感じている。

この適正化は本当に、玉野市全体として進んでいく予定なのか。ある程度、鉾立とかがなくなったら、もう進まないのではないかと感じるがどうか。

それと令和28年までの住民基本台帳を拾い上げているが、人口や子どもの数は流動的なので、担当者のやり方次第で増えもするし減りもすると思う。

それと小規模のメリットデメリットを出しているが、大規模には大規模のメリットデメリットがあると思う。適正化というのは、小規模校を潰すだけではないと思

う。子どものために本当に教育的なことを、財政が困難な中であっても予算化するのが教育委員会の力ではないか。

教育次長：検討委員会のメンバーについては、この15名で続けたいと考えている。またこの資料については、各会場で説明しているの、こういう形で抜粋しているの、ご理解いただきたい。

適正規模化策定の流れについては、検討委員会で検討して、8回ほどやる予定だが、答申をいただいて、最終的に策定した内容について実行していく。

参加者8：鉾立小を鉾立認定こども園の二の舞にしないでほしい。鉾立認定こども園は、去年3月に玉野市幼保一体化計画ができて、3か月で閉園を決められた。少ない人数はかわいそう、大勢の中でこそ子どもは成長する、一日も早く大きな園へという言葉を繰り返し聞かされて、こちらの意見は全く反映されず、その時もう決定していたのだと思う。でも幼児教育のどういった考え方に裏付けされての発言かは一向に分からなかったし、鉾立こども園の何がかわいそうだったのか、何がいけなかったのかはいまだに分からない。

先ほども話があったが、幼保一体化計画は、もしかしたら小さな園を2つ3つ閉めて終わってしまうのではと思っている。素人の私が考えても、あとの計画は実現不可能と思えるからだ。この度の適正化計画は、園で行われたことをそっくりそのまま繰り返しているだけだ。このような杜撰な計画でまた私たちに苦しめないでほしい。幼保一体化計画と適正規模化計画は、私はどうしても教育に携わっている人の発案だと思えない。

もしもこの計画が学校教育課からの発案でないのであれば、学校教育課の先生方、教育長にお願いする。現在の玉野市の小中学校の実態を、中に入ってきちんと見て把握してほしい。学校を失う地域の未来を想像してください。少人数や複式での教育は本当にダメなのか、玉野市だからこそできる教育はないのかをじっくりと考えてください。そしてどんな学校で子どもたちのどんな育ちを目指していきたいのかを、教育者の観点で私たちに話してください。そして、その後でもし必要ならば、統廃合の提案をしてください。

教育長：おっしゃることは分かるが、玉野市全体のことを考えて、そして子どもたちのことを考えて、この適正規模化計画を進めようとしている。これは決して決まっている計画ではない。みなさんの今日のご意見などを伝えながら、今後検討委員会等でしっかりと検討していただく。玉野市の方向を考えていくという会なので、今のようなご意見をいただければ、それを検討委員会へ届けたいと思う。

参加者3：保護者の方の、子どもが少ないと子どもが寂しい思いをするという意見を聞いて、増やす方法もあるということ提案したい。私もいろいろ、この玉野市の素敵な学校をなくされるのはかなわないと思って自分で勉強してみた。

広島県福山市の山野小学校、すごい山の中の小さい学校だが、小規模特認校として、他県から不登校の児童生徒を受け入れるということをしている。それから愛媛の今治北高校の大三島分校も廃校の危機があったけど、全国から不登校の生徒を受け入れて廃校を止めている。玉野市にもこんなに素敵な自然があるし、こんなに素敵な地域の方がいるのだから、いま不登校児童生徒数が過去最大になっているので、そういうことも考えていくことができるのではないかと思います。

参加者 4：統廃合がいいのか悪いのか、学校づくりと地域づくりとどう関係あるのかなど、大勢で議論をして、じっくり時間をかけて、10年先20年先を見据えた計画をゆっくりゆっくり練り上げてほしいと思う。

今日は参加者が多いが、前の会場では10人とか、本当少ない人数でしか話ができているように聞く。アンケートにしても、もっと勉強して、じっくり考えて答えたいと思う。

だからこれからもしっかり広報してもらって、地域説明会やいろんなことで情報を流してもらって、市民みんなが未来の玉野市や小学校や子どもたちのためにどうすればいいのかを、じっくり検討する時間をください。

4 閉会